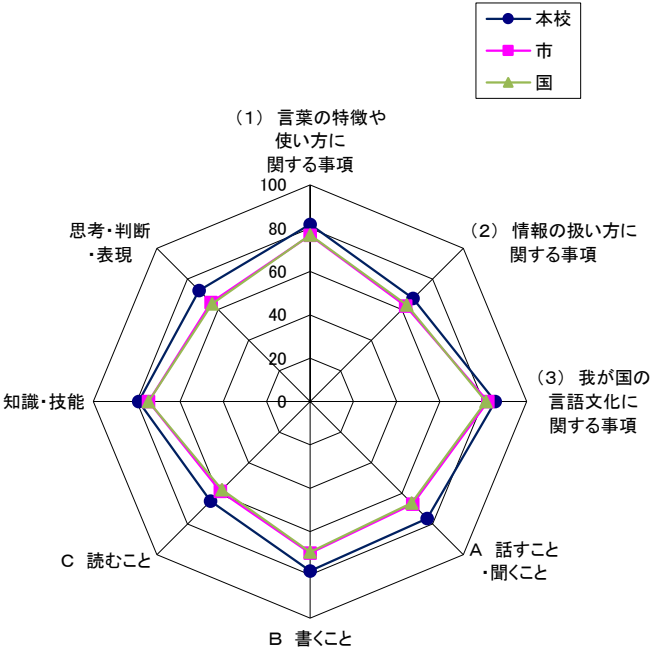


宇都宮市立峰小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	81.8	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	67.3	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	85.5	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	76.4	67.0	66.3
	B 書くこと	78.2	70.0	69.5
	C 読むこと	65.0	58.6	57.5
観点	知識・技能	79.1	74.5	74.5
	思考・判断・表現	72.4	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

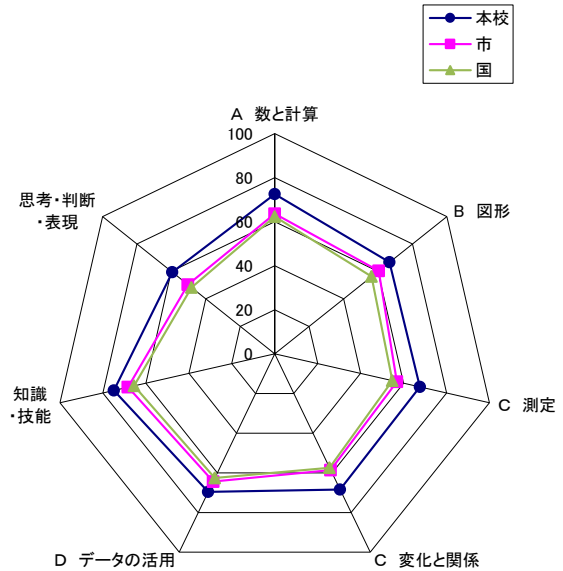
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は81.8%で、国の正答率を4.9ポイント、市の正答率を5.1ポイント上回った。 ○2問の漢字の書きでは、それぞれ9.3ポイント、0.6ポイント、国の正答率を上回った。	・漢字の学習については、繰り返し練習するとともに、文章の中で既習の漢字を使い、場面に合った漢字を語句の意味とともに習得させていく。 ・送り仮名にも注目させて漢字の理解を深めさせていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は67.3%で、国の正答率を4.2ポイント、市の正答率を4.9ポイント上回った。 ○話合いの様子が記載された文章から、話合いの記録の書き表し方を説明したものを選択する問題では、4.2ポイント上回った。	・文章と表や資料などを用いて、情報どうしを意識させるとともに、自分の考えを書きまとめる活動においても、文章だけでなく、表や資料を活用してまとめるよう指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は85.5%で、国の正答率を4.3ポイント、市の正答率を3.4ポイント上回った。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる問題では、国の平均を4.3ポイント上回った。	・教科書の文章などを通して、日常生活において自分たちが普段使っている言葉とは異なる言葉があることや、それぞれの世代には特有の言葉遣いがあることに気付かせて、児童の言葉の関心を深められるよう指導していく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は76.4%で、国の正答率を10.1ポイント、市の正答率を9.4ポイント上回った。 ○自分の聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題では、国の平均を15.5ポイント上回った。	・相手の話を聞き、話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめるよう指導していく。
B 書くこと	平均正答率は78.2%で、国の正答率を8.7ポイント、市の正答率を8.2ポイント上回った。 ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題では、国の平均を15.1ポイント上回った。	・各教科において目的や意図に応じて自分の考えを書く機会を設定するなど、普段から条件を意識して文章や自分の考えを考えるように指導する場面を増やす。
C 読むこと	平均正答率は65%で、国の正答率を7.5ポイント、市の正答率を6.4ポイント上回った。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題では、国の平均を0.8ポイント下回った。	・各教科の学習において、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したりする活動を通して、文章を読み取る力を育てていく。

宇都宮市立峰小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.5	63.6	62.3
	B 図形	66.7	60.4	56.2
	C 測定	67.6	56.9	54.8
	C 変化と関係	68.5	58.6	57.5
	D データの活用	69.6	64.4	62.6
観点	知識・技能	74.9	68.3	65.5
	思考・判断・表現	59.5	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

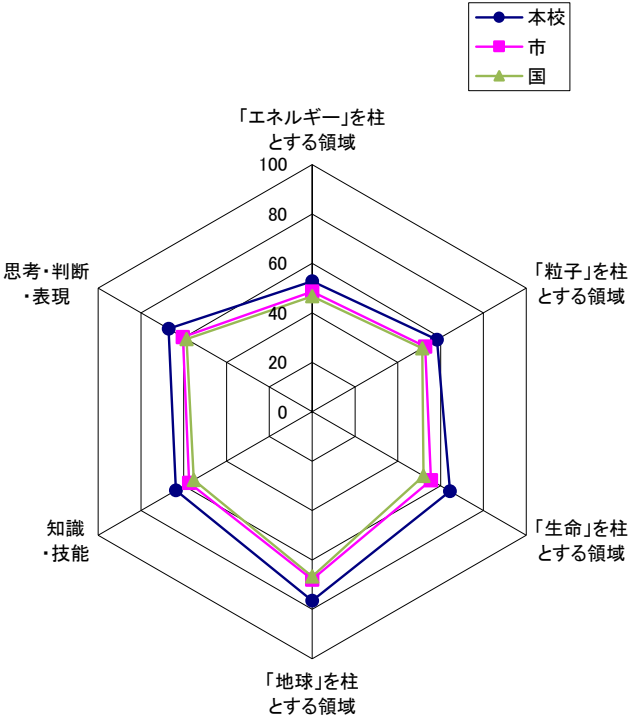
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は72.5%であり、国の正答率を10.2ポイント、市の正答率を8.9ポイント上回った。 ○数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉える問題では、国の平均を26.1ポイント上回った。 ●分数の加法について、分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する問題では、国の平均を10.3ポイント上回っているものの、無回答率が14.8%で、正答率も33.3%と低い。	・今後も、分数や小数において数量を正確に捉え、計算する指導に加え、示された情報を基に、必要な数値を読み取って処理する反復練習を行い、定着を図る。 ・計算の定着を図った上で、計算の過程や結果について考えを書いたり、話し合ったりする場面を設定し、筋道を立てて説明する力を育てる。
B 図形	平均正答率は66.7%であり、国の正答率を10.5ポイント、市の正答率を6.3ポイント上回った。 ○基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する問題では、国の平均を18.6ポイント上回った。 ●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する問題では、国の平均を2.7ポイント下回った。	・図形の構成要素や性質、面積の求め方について繰り返し指導するとともに、作図の手順だけでなく、手順の理由を説明する活動を取り入れ、定着を図る。
C 測定	平均正答率は67.6%であり、国の正答率を12.8ポイント、市の正答率を10.7ポイント上回った。 ○はかりの目盛りを読む問題では、国の平均を15.0ポイント上回った。	・復習問題のプリントを活用し、数量の変化や関係について計算したり、数や言葉での説明したりできるように定着を図る。
C 変化と関係	平均正答率は68.5%であり、国の正答率を11ポイント、市の正答率を9.9ポイント上回った。 ○「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題では、国の平均を14.7ポイント上回った。	・復習問題のプリントを活用し、理由を言葉や数を用いて記述できるように定着を図る。
D データの活用	平均正答率は69.6%であり、国の正答率を7.0ポイント、市の正答率を5.2ポイント上回った。 ○目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題では、国の平均を6.0ポイント上回った。	・グラフや表を正確に読み取り、必要な数値を選び取ることができるように、反復練習を行い、定着を図る。また、他教科の学習内容と関連付けながら、繰り返しグラフを読んだり、書いたりする機会を設ける。

宇都宮市立峰小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	52.8	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	58.3	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	64.4	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	76.5	67.9	66.7
観点	知識・技能	63.7	57.5	55.3
	思考・判断・表現	67.1	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は52.8%であり、国の正答率を6.1ポイント、市の正答率を4.2ポイント上回った。 ○乾電池のつなぎ方について、直列につなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題では、国の平均を9.7ポイント上回った。 ●身の回りの金属について、電気を通す物か、磁石に引き付けられる物か、それぞれの性質を問う問題では、国や市の平均を上回ってはいるものの、正答率は16.7%であった。	・3学年で学習する磁石の性質のような下学年の学習内容についても、金属の温まり方、電磁石のはたらき、水溶液の性質等の各学年の関連する単元で触れていくことで、定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は58.3%であり、国の正答率を6.9ポイント、市の正答率を5.5ポイント上回った。 ○水が温まると体積が増えることを根拠に、海面水位の上昇の理由を予想して表現する問題では、国の平均を10.3ポイント上回った。 ●水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想して表現する問題では、国の平均を2.4ポイント下回った。	・事象に対して、予想をしたり表現したりする力は伸びているので、教科書のコラムや学習動画等を活用して、学習内容と実生活との関連に気付かせ、予想を立てたり表現したりする活動につなげていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は64.4%であり、国の正答率を12.4ポイント、市の正答率を8.9ポイント上回った。 ○レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し表現する問題では、国の平均を23.8ポイント上回った。 ●上記の問題では、無回答率が11.1%であり、回答できる児童とできない児童との差が見られている。 ○その他、ヘチマの花のつくり、発芽、花粉の観察等についてもすべて平均を上回っている。	・植物の成長と自他の生命を結び付け、積極的に自然環境に対して興味を高められるよう、今後も各単元ごとに関連付けて指導していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は76.5%であり、国の正答率を9.8ポイント、市の正答率を8.6ポイント上回った。 ○赤土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果やまとめを基に、他の条件での結果を予想して表現する問題では、国の平均を13.6ポイント上回った。 ●上記の問題では、無回答率が7.4%であり、回答できる児童とできない児童との差が見られている。	・身近な環境から課題を見つけさせることで、意欲をもって実験や観察に取り組めるようにする。また、結果や考察について、理科の言葉を用いて書く活動に取り組ませるために、グループでの対話やキーワードの提示などを取り入れていく。

宇都宮市立峰小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の設問の肯定的割合は、100%で、全国の平均を3.6ポイント上回っている。総合的な学習の時間や行事など、キャリア教育を通して、将来の自分の姿を思い描くことができていると考えられる。また、最高学年として縦割り班等で下級生と関わったり学校行事での仕事に責任をもって取り組んだりする経験ができていることも、キャリア形成に役立っていると言える。今後、更に様々な教科において夢に向けて努力している事例にふれさせたり憧れの人に目を向けたりすることを通して視野を広げられるようにしていく。

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の設問の肯定割合は91.0%で、全国の平均を10.6ポイント上回っている。また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の設問の肯定割合は、95.0%で、全国の平均を2.6ポイント上回っている。各教科の授業において、グループ学習やペア活動を積極的に取り入れたり、学級活動の時間に学級の課題について話し合ったりするなど、考えを伝え合う場を多く行っている成果であると考えられる。一人一人が課題に対しての主体的に取り組む態度は、自分と友達のことを比較したり、全体の意見をまとめたりする力とともに、集団の力を育てていくことにもつながると考えられる。今後も、様々な活動において他者と関わり合い、協力し合ってよりよい学校生活が送れるよう支援していく。

○「算数の授業は得意」と回答した児童の割合は73.0%で、全国の平均を12.4ポイント上回っている。また、「算数の授業が好き」と回答した児童は71.0%で、全国の平均を13ポイント上回っている。

○「算数の授業でどのように考えたかについて説明する活動をよく行っていますか」の設問の肯定割合は80.0%で全国の平均を14.5ポイント上回っている。今回の調査における算数科の設問の結果は、全ての項目が全国の平均を上回っており、学習内容をよく理解できていると言えるので、引き続き、習熟度別での一人一人がわかる授業づくりや、算数の楽しさを伝えられるような授業づくりをして、全体の理解を深めていく。

●「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の設問の肯定割合は、66.0%で、全国の平均を13.9ポイント、市の平均を下回っている。また「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」の設問の肯定割合は、82.0%で、全国の平均を0.7ポイント下回っている。今後は学習や課題に対しての振り返りを大切に、授業の中で問題の解き直しや間違いが多い問題を取り上げることで理解が深められるようにしていきたい。

●「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると感じますか」の設問の肯定割合は、60.0%で、全国の平均を9.3ポイント、県の平均を10.1ポイント下回っている。児童は、インターネットで情報収集することやICT機器で文章を作成するなどの基本的な動作には慣れてきている。しかし、今後はICT機器で資料やスライドを作る際には、図や表などの作り方やその効果について取り上げ、様々な方法を使って作成できるよう支援していく。

宇都宮市立峰小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもったうえで友達と積極的に意見を交流し、様々な視点から自らの考えを修正したり深めたりできるように支援していく。	教材やICTを効果的に活用し、自分の考えをペアや小グループで伝え合ったり、ノートやタブレットにまとめ、意見交換をしたりする機会を設けている。	話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか。の84.0%で国の肯定割合を1.2ポイント下回っている。